



【株式会社阪急阪神ロジパートナーズ】

フォークリフト用ドライブレコーダーで 物流現場の危険を把握、解析する

ヒヤリハットに至る“前兆”と “経過”的正確な検証が可能に

阪急阪神エクスプレスの機能分担会社として、集荷、配送手配、保管、梱包など、国内貨物の輸送や倉庫業務を担う阪急阪神ロジパートナーズ。成田空港に程近い芝山営業所は、航空貨物対応の専用機材と通関機能を



株式会社阪急阪神
ロジパートナーズ
取締役
東日本営業部長

木澤繁夫氏

備え、スタッフ約80人で運営する同社最大規模の物流拠点である。今年1月、同営業所のフォークリフトにツールマートのドライブレコーダーが取り付けられた。同社取締役・東日本営業部長の木澤繁夫氏は、ドライブレコーダー導入の経緯を話す。

「お客様の貨物をお預かりする当社の業務において最も重要なのは現場での品質向上です。商品を傷つけず、スタッフが安全に作業するための配慮は欠かせません。フォークリフト操作の安全性向上については定期的な教育訓練に加え、ミスの検証と共有などを綿密に行う一方、さらなる強化を目指して新たな施策を模索して

いました。昨年の国際物流総合展でツールマートのドライブレコーダーを知り、安全面強化の有効な手立てになると判断しました」

ツールマートのドライブレコーダーは、車両にかかる衝撃(G)が常時モニタリングされており、その衝撃(G)の値を基に危険性があった瞬間の映像を抽出して確認することができる。

「ヒヤリハットの発生時は当事者の聞き取り調査を入念に行い、再発防止のための研究材料にしてきましたが、記憶に頼るだけでは曖昧さが生じるだけでなく、思い込みの可能性も残ります。また、文面での報告ではヒヤリハットごとの特殊性を伝えきれない

フォークリフト用 ドライブレコーダー

水平120度の前方カメラ、運転者と後方を写す後方カメラで、広範囲かつ鮮明な映像を記録。PC画面で2つの映像を同時に確認できる。また、Gセンサーが感知する前後/左右/上下方向の加速度(G値)を時間推移にしてグラフ化。映像と連動し、グラフの数値が変動した時に車両に何が起きたかを確認することができる。このデータにより、「作業の危険の把握と解析」「物損事故の原因特定」「ルール違反の運転の管理」「記録情報の社内教育への活用」などが可能となる。

解析画面



という問題もあります。その点、本機はヒヤリハットに至る“前兆”と“経過”、周囲の状況を可視化し、検証・分析できる画期的なものです」

記録データの解析により 潜在リスクを顕在化できる

フォークリフトを安全に操作する上で重要なのは、走行と荷物の上げ下げといった一つひとつの動作を切り分けて行う基本動作に忠実であること。その周知徹底に力を入れる現場では、ドライブレコーダー導入の効果を早くも感じている。芝山営業所長・三辻英昭氏は話す。

「基本動作を守っているつもりでも、時間に追われている時などは複数の動作が無意識に重なっていることがあります。その点、ドライブレコーダーで常に映像が記録されていると意識することで、フォークリフトオペレーターはいい意味の緊張感を持って作

業に集中できます。基本動作順守や危険把握の教材としての活用も考えています」

ツールマートのドライブレコーダーは接触の衝撃だけでなく、急発進や急停止、急旋回といった危険な運転も記録する。よってデータを解析することで、潜在リスクの把握にも役立てることができる。芝山営業所では導入後2週間分のデータ解析で、課題が顕在化したと三辻氏は話す。

「一定以上の衝撃(G)を集計すると、荷物の搬入・搬出が多い午前中に集中していることが分かりました。これはある程度想定でしたが、意外にも貨物量の少ない日などに急な動作が極端に多いことが分かったのです。荷物を運んでいない気の緩みが影響していると思われますが、今後データ解析をさらに進めて具体的な対策を講じていきます。また、急発進・急停止をなくしていくことで、燃料やタイヤにかかる経費削減効果も期待しています」



株式会社阪急阪神
ロジパートナーズ
東日本営業部
副部長
芝山営業所長

三辻英昭氏

フォークリフト用ドライブレコーダーの実際的メリットを確認した阪急阪神ロジパートナーズでは、全国10カ所の全拠点に順次導入を進め、安全面をより強化していく考えだ。 A

ツールマート

物流現場や工場などで役立つ商品を届け、現場効率化・課題解決をサポートする企業。180社以上の協力企業とともに様々なカスタマイズに対応し、顧客の作業環境に合わせたソリューションを提案する。フォークリフト関連ではスピード警告装置やバックアイシステムなども取り扱っている。